2013/02/17
10：15 ～ 12：00
13：00 ～ 15：00

平成 24 年度（社法）北海道柔道連盟指導者講習会メモ

文責：北海道中体連柔道専門委員長　中川秀樹

以下、川口先生によるご講話を当方の感覚でメモし、時系列で羅列したもので、資料と照らし合わせなければ理解し難い点ご容赦ください。また、明らかな誤差、および追記についてはお知らせ頂けると有り難いです。

＜ルール改正の意義＞

柔道においてはルールの改正が頻繁で、混乱を来しているところは周知のこと。
低い姿勢で足を取りに行く→レスリングとどこが違う？→ジャケットレスリングと揶揄されることも事実であった。
オリンピックにおける採用は、テレビの視聴率にも大きく左右される。
JUDO の素人目のわかりにくさは課題である。
レスリングの置かれている立場は、皮肉にもここ数年のルール改正の必要性を補完する。（危機感）
8 月のリオ国際で検証し、2016のリオ五輪につながる。

＜足取り（帯下攻撃の反則）＞

（例）フランスパリグランドスラム大会にて（？）、森＊選手が相手の内股を受けた際足を取って反則負けを受けた。
まだまだ「ついつい」が体に染みついている。
今後は正しく組み、理にかなった柔道がますます重要になる。
（体捌きがますます重要になる）
5 分の試合… 2.5 分で指導4（反則負け）＜有効1（試験的導入）
指導0の試合は0であった。
日本の審判は寛容である傾向。

反則の適用

標準的組み方以外

p.3 ②　5 秒→削除　「即」」

寝技の進展

色々ルールが変わる中、寝技そのものは大きく変わっていない。
今後ますます寝技が重要になる。

場内外　p.4 の 6

（全日本学生団体を引用）「グレーゾーンは場内」と位置づける傾向。
（最後まで見極め、判断することが重要）

医療処置　p.9

1 回目の出血でしっかりと止血させることが大切。
⑩重大な負傷→主審はドクターに聞く。選手に聞くのではない。ドクターが判断。①と⑩の違いを認識する必要がある。

少年大会申し合わせ事項

第 26 条→勝敗よりも負傷事故を未然に防ぐことを第一念頭に置く。
審判員による、危険の瞬時の判断を最優先する。

脳震盪対応

ジュニア→ 20 歳以下　6 年間
カデ→ 15~17　3 年間
判断は誰が行う→ドクター…

クロスグリップ　p.16

肩襟、片袖ともいずれは即指導となるはこび。
奥襟を切る…指導→（いなす技術？）

IJF 試験導入　p.17

副審は VTR で確認。
IJF は費用面での削減効果を…？
「一本の価値を高める」
偶発的に手が足に触れた程度は反則としない。

寝技　p.20（９）

場外に逃げても継続、絞め技も関節技も継続。
場外であって、立ち技から瞬時に寝技に移行した場合も継続。

ジュリー

技のアップダウン×→日本の見解→アジアは追随の傾向。
ロンドン OP におけるジュリーの審判に対する介入に対する審判員の反応→結束
例の、EBN 選手の試合における主審は、技量的に申し分ない…審判ランキングでも最上位経験者。
新ルールでは、余程のことがない限り技の評価に言及しない。

以上